

## 障害者へのIT支援を考える研修会開催

情報通信技術（IT）の進展により、電子・情報技術を活用した機器が生活のいたるところで利用されるようになってきています。特に障害のある方や高齢の方の場合、ITを活用することにより、様々な情報の取得や社会参加の機会の獲得など、今後の活用が大きい期待されるところです。

かながわともしびセンターでは、だれもがITの可能性を共有できるしくみを作るために、IT利活用に向けた普及啓発活動を、県内各地で展開しています。去る十一月十一日には、相模原市内を中心にIT普及支援事業を行うNPO法人パラボラジャパンと相模原障害施設協議会の協力により、障害者IT利活用研修会を開催しました。

冒頭、国立特殊教育総合研究所主任研究官の大杉成喜さんが、特殊教育の現場でITを積極的に利用して、知的に障害のある方の情報やコミュニケーション支援を行っている事例を紹介されました。大杉さんは、「生きる力を育んでいくためにも、ITを大いに活用していくべき。一方、トラブルに巻き込まれないよう、多くの方々が協力してネットワークを通

じた社会のルールを伝えていくことが大切である」と話されました。身体に障害のある方のIT利活用の現状と課題について話された

日本障害者協議会情報通信委員の梅垣正宏さんは、「ITの進展は、障害者の能力を最大限に生かすことのできる

社会を生み出した。しかし、多様なニーズに対応するため、福祉や医療関係者、ボランティア等

の連携が不可欠」と、身近な地域での支援体制づくりが急務であることを強調されました。

事例発表では、企業組合ピアネットの工房理事長の山口幸子さんが、障害のある方の在宅就労支援の様子を、共催者であるパラボラジャパン副代表の清水巖さんから、パソコンサポーター活動の様子が紹介され、IT利活用と支援の大切さを話されました。

◆NPO法人パラボラジャパン  
☎042-755-9010（森田）



障害のある方の社会参加のためにもITの利用は大切と語る大杉氏

## 読者の声

銀行にてー

とある平日の午後、久しぶりに仕事が終わったので、銀行に出かけた。そこには老人の姿が多く見受けられた。

ロビーで順番を待っていた時のこと、老婦人が窓口と呼ばれた。

その老婦人はいつも来ている様子だったが、何か採めていて、どうやら書類の不備で手続きができないらしい。

聞こえてくる会話の内容からすると、貸し金庫の鍵を失くしてしまったとのこと。金庫を開けて中の書類をどうしても出したいと言っているが、このような状況では、窓口担当者ではどうにもできないことを説明している。

少し粘っていたが、間もなく老婦人はあきらめ、帰って行った。

独り暮らしの老人が増えていくことは新聞やテレビで知ってはいたが、実際、そのような老人達が、元気に一人でやってきては、次々と手続きをして帰って行く姿を見たのは初めてであった。

まだ一人で何もかもできること

は素晴らしい。だが、それができなくなったとしたらどうなるのか、と思う。

日々の中で、お金の出し入れさえも困るであろう。周りの信頼できる人にお願ひし、やってもらうのだろうか。成年後見制度を活用する人も増えているとも聞か、まだ大半の老人は、このような制度を知らないのではないだろうか。

その帰り、別の銀行のATMで送金をしようとしたら、機械の操作が全く分からず、立ち尽くしてしまっただけだった。どうやら機械化が進み、人員削減なのか、係員はいない。

ふと、「弱者の立場で考えられないなければ、ついていけない者は、どんどん置いていかれてしまう世の中になってしまふのか」と感じる午後であった。

（貯金魚）

### 投稿をお寄せください

「福祉について思うこと」をテーマにした投稿をお待ちしています。他のテーマや本紙内容へのご意見ご感想でも結構です。分量は700字程度。匿名でも結構です。



郵送：〒221-0844  
横浜市神奈川区沢渡4-2  
FAX：045-312-6302  
Mail：kikaku@jinsyakyo.or.jp  
いずれも「県社協企画課タイムズ係」と明記のこと